

平成 25 年度 第 4 回 静岡市市民活動促進協議会 会議概要

- 1 開催日時 平成 26 年 1 月 29 日（水） 午後 7 時 00 分から午後 9 時 00 分
- 2 開催場所 静岡市役所 本館 3 階 第 1 委員会室
- 3 出席者 <出席委員>大西会長 山本副会長 井野委員 大棟委員 黒田委員  
小林委員 津富委員 原田委員 増田委員  
<欠席委員>遠藤委員 日詰委員  
<事務局> 杉山男女参画・市民協働推進課長  
山本統括主幹 池田主査 望月主査 平野主事
- 4 傍聴者 なし
- 5 議事
  - (1) 第 3 回協議会結果について
  - (2) 第 3 次静岡市市民活動促進基本計画の「目指す姿」について
- 6 会議内容要約
  - (1) 開会 杉山男女参画・市民協働推進課長 挨拶
  - (2) 議事  
大西会長挨拶

① 第 3 回協議会協議結果について

事務局 「NPO の組織力強化」について協議した結果等を説明

② 第 3 次静岡市市民活動促進基本計画の「目指す姿」について

大西会長 基本計画は、「基本的な考え」と「基本的な施策」で構成されている。その中の「目指す姿」をどう考えるか。

今回は「基本理念」を具体的な言葉で表現したい。第 3 次総合計画に合わせて「8 年後目指すべき姿」について考えたい。具体的には、いくつか箇条書きで表現していきたい。

井野委員 8 年後の平成 34 年には、高齢化社会が進展し、人口が減る社会をイメージした計画策定となる。

原田委員 「静岡市市民活動の促進に関する条例」の理念を変更するのか？

大西会長 本協議会においては、条例ではなく計画を討議していく。

津富委員 同様の計画を他の政令市と比較してみるとわかりやすい。

- 山本副会長 キーワードとしては「楽しく」。ベンチャー企業をリカバリできるような機能がNPOにも必要。
- 増田委員 知ることと関わることの意識の低さが問題。8年経ったときに関わりを持つことへの抵抗を少なくすべき。NPOにインターンシップに行くことが普通になり、NPOの進む方向が一般市民に伝わるようにしていくべき。
- 大棟委員 大学と地域との関わり、市と大学との関わり、大学の姿勢のあり方が重要。
- 津富委員 大学というよりも、学生とつながるチャンネルが必要なのでは。  
学生によって価値観が違う。学生がNPOを作り出すのは、そう遠いものではない。  
ただし、ごく一部の学生だけが、市民活動に流れている。  
市民活動をどう市民に取り戻すのかが課題。市民活動を行政サービスの代替だと考えると市民がお客さんの立場になりやすい。市民参画と市民活動を切り離さないことが重要。思い立ったらすぐできるきっかけ作りも必要。
- 山本副会長 市民活動に可能性を感じる一方で、「行政があれをやってくれない」という意見をよく聞く。⇒ 当事者意識がない。
- 大棟委員 行政は自治会活動に頼り過ぎている。もっとNPOに頼るべき。
- 大西会長 たくさんNPOがあるなかで、行政はどこに声をかけていいのかわからない。具体的に指標にして示せば、NPOを選びやすくなるのでは。
- 津富委員 「まちづくり協議会」が設置されれば良いのでは。
- 大棟委員 「まちづくり協議会」の中にNPOが入るといったシステムづくりが出来れば良い。
- 井野委員 私の住んでいる周辺では、サービスを受けないことが幸せ、行政に関わらないことが幸せと考える人もいる。日中は市民活動をして、夜は地域と関わらないという二重生活のような人もいる。
- 大西会長 ①若者の力をどう取り込むか。②地縁団体とNPOとの結束。③どのような組織力強化。を望むのか。こういったことが、できていないと若者も流れてこないのでは。
- 井野委員 若者を大学生中心に考えるということには賛成できない。大学生は卒業し、リーダーが1年で代わってしまい後継者が育たないこともある。地域の青年団や女性の存在を無視してしまっているのでは。
- 津富委員 金沢の「学生のまちプロジェクト」の様に学生の居場所がまちにできると良い。
- 大棟委員 社会人の若者の市民活動への参加は、消防やPTAの活動に特化してしまう。それらの活動をやめた後、どうするのか、他の活動に流れるような仕組み作りが必要。

- 大西会長 主婦層の参加も重要。
- 増田委員 市民活動のあり方は「居場所づくり」だと思う。主婦層も私生活の中でハマれる「一生懸命になれるもの」のヒントを与えることが大切。例えば、時間ができてアルバイトを始めるといった空いた時間の使い方や、一生懸命になれることを探しているのでは。
- 山本副会長 私たちの活動は6割が主婦。1回入ると居場所になる。会員は使命感をもっているが、確かに経済が不安定で市民活動への参加にはダメージを受ける。
- 津富委員 女性は、子育て支援から、いろいろなことを展開していく可能性を持っている。活動を育てるべき。
- 山本副会長 中間組織（支援者）を育てていくべき。一緒にやるのではなく応援する人や相談できる人が必要。
- 黒田委員 数値目標（指標）も必要だと思う。NPOがいろいろあり過ぎる。立ち上げてもすぐに消えては意味がない。既に立ち上がっているものを育てる。組織をオープンにしていけば後継者は育つ。ポータルサイトで紹介する等で、既にある団体に参加してもらうような仕組み作りが必要。新しく作るのではなく、既存のものに呼び込むことが必要。  
そのためには「組織のマネジメント力の強化」も必要。どういう活動をしているか見えない。そこが見えれば参加者も増えていくのでは。8年後も既存のものを活かして足りない部分を補うべき。
- 増田委員 自分の関わった学生と経営者をつなげる「ジョブこん」は、既に学生にバトンを渡している。卒業生がサポーターになり、担当者をステップアップさせている。  
今、NPOの中心になっている人がポジションを変えて、次が育っていけるような仕組み作りが必要。
- 大西会長 キーワードとして、①若者、②新しい顔合わせ、③組織力強化、④主婦が挙げられた。これらをビジョンにして落とし込むか。キャッチフレーズをいくつか示して欲しい。
- 大棟委員 「元気な高齢者」もキーワードとして挙げられる。
- 原田委員 それぞれを補完できるような言葉が良い。
- 山本副会長 「若者」とかではなく「チャレンジャー」ではどうか。
- 津富委員 『全員参加のまちづくり』はどうか。参加することで「何をやっても変わらない（無力感）」を、少しでも変えられるというような意味で。
- 大棟委員 全員参加できるように地域の中のあり方を全面的に変えていくべき。
- 大西会長 市だけに頼らない意識を。
- 津富委員 今、先行投資をして、8年後に回収できると良い。

- 大西会長        これまでの討議の結論として、市民活動が8年後目指すべき姿は『全員参加のまちづくり』とする。  
                  8年後には無関心層をどう取り込んでいくのか。「当事者意識」が重要となる。
- 山本会長        「組織力強化」については、どう表現するのか？
- 津富委員        1つの文章では難しいのでは。
- 山本副会長     「全員参加」と「組織力強化」は、車の両輪。
- 津富委員        『全員参加の力強いまちづくり』ではどうか。
- 大西会長        静岡市の色を出すのであれば『全員参加のまちづくり』が良い。  
                  「組織力強化」については、細かなところで触れていきたい。
- 事務局         事務連絡  
                  ・次回（第5回）市民活動促進協議会は、平成26年3月19日（水）9:00からの開催を確認